飛鶴の森林から

発行日
2014年８月４日　第89号
林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林ふれあい推進センター

雷別ドングリ倶楽部を開催

７月16日（水）、標茶町雷別地区国有林の森づくり活動（自然再生活動）を行うボランティア組織、「雷別ドングリ倶楽部」が第２回目の活動を行い、17名の会員が参加しました。

今回は、粗朶束作り・設置と外来植物の除去を行いましたので報告いたします。

粗朶束

第１回目に予定していた作業ですが、悪天候で作業を変更したため、先送りとなっていたものです。

この粗朶束は、平成25年12月１日に開催された、釧路湿原自然再生協議会第13回森林再生小委員会で、林地の表土流失対策として設置しては、と助言のあったもので、対策の一つとして、その効果を確かめるために、試行的に設置するものです。

本来なら資材を購入して粗朶束作りをするところですが、資材の購入が困難であったため、（諸般の事情で、どうしても入手することができなかったため、やむを得ず）雷別の現地で、大量に入手可能な笹を当センター職員が刈り払い資材としました。

粗朶束の作成の手順

①刈り取ってある笹で、長さ１m80cm×直径20cmの束が作成できるような量を並べる。

②笹丈（１m位）がないので、笹を互い違いに並べる。

③粗朶束の芯材として「女竹」を使うので女竹を真ん中に置き、笹で包むようにし、左右及び真ん中の３箇所を荒縄で縛る。（太巻きを作る要領）

粗朶束の設置

作成した粗朶束を、林地の表土が浸食（エロージョン化）された箇所に並べる。

作業の様子を写真で、ご覧ください。会員の皆さんは、手際よく作業を進めていきます。クワの使いかたは玄人はだし。予定箇所を粗朶束で覆うことができました。

①笹を集めます

③女竹を中心に縄で縛ります

⑤粗朶束を設置

②束になるよう整えます

④設置個所に溝を掘る

⑥粗朶束で表土を覆います

外来植物

作業地へ繋がる道路沿線で、外来植物の除去を行いました。

道路を歩きながら、当センターの所長が外来植物の名前、特徴や駆除の方法等の解説を行い、作業を進めて行きます。

道路の両脇は、一見すると夏草が繁茂した、緑一色の草むらに見えるのですが、近づいて良く見ると、環境省が指定する要注意外来生物リストに名を連ねるオオアワダチソウやヒメジョオンといった強者の姿を発見することができます。

草むらに見えますが

ヒメジョオン発見

同リストには、「既に各地で野生化しているが、希少種等との競合・駆逐のおそれがある地域については、積極的な防除または分布拡大の抑制策の検討が望まれる。」と書いてある厄介者です。

種類によっては、引き抜こうと思っても、根が強靭で途中で切れたりと、根こそぎの除去はなかなか難しいものです。

（このへんが急速に広範囲に生息域を広げる要因の一つですね。）

今回は、道路沿線の除去は出来ました。限られた地域での作業となりましたが、特定外来生物に指定されているオオハンゴンソウはありませんが、相当数の外来植物が、じわじわと生息域を拡大しているのは間違いありません。

地味な作業ですが、引き続き外来植物の除去を実施していきたいと思います。

外来植物除去のようす

黒く熟したクワの実

また、道路沿いには、開花を迎えた植物や実のなる木やツル類もありました。なかでも、ヤマグワは黒く熟した実をつけており、見つけた人は採り立ての味を楽しんでいました。

さらに、進むとコクワのツルもあり、ツルを見ながら、次に来たときはコクワの実だねと次回の参加を楽しみにしている声も聞こえていました。

次回、第3回の活動は9月24日に防鹿柵の設置を予定しています。（はたしてコクワの実は熟しているか？）

なお、この日、標茶町の最高気温は27℃にとって、大変暑いなかでの作業となりました。

ドングリ倶楽部の皆さん、お疲れ様でした。

ウドの花

ヤマブドウの実

雑記帳

水面貯木場

釧路市内で、展示してある絵画や写真を見ると、タンチョウ、夕日、SL、湿原、釧路川等、釧路を代表するものを、題材にしたものが多いようです。

釧路川の作品に、丸太を組んだいかだの姿を見かけます。

このいかだは、釧路川上流で伐採された木材を流しているものではなく、べニヤ板の原料として輸入した原木を、釧路港から引き船が曳いて、水面貯木場に運んでいるもの。

水面貯木場は、昭和30年代に入り、釧路港に外国産原木の輸入が急増、木材の受入施設の整備拡充を図るため、釧路川河口から約4㎞上流に、昭和41年完成したもの。

内陸向輸送のため、雄別鉄道新釧路駅から延長二五八〇mの鉄道（水面貯木場線）も敷設されていましたが、老朽化と取扱量の減少から、水面貯木場は本年度での廃止が決定。

これで釧路の風物詩の一つ、釧路川のいかだも姿を消してしまいます。

さて、この水面貯木場で、思い出すものが二つ。

一つ目は、昭和34年9月25日、潮岬に上陸し、伊勢湾沿岸の愛知県・三重県に甚大な被害を及ぼした伊勢湾台風。

この台風で、被害を拡大したものに流木があります。

高潮で侵入した海水とともに、名古屋港の水面貯木場等から流失した原木は約十一万七千六百m3、1本の大きさは、直径1m、長さ5m、重さ数トンもあり、住宅地を破壊したもの。

伊勢湾台風の話は、災害派遣で被災地に行った、父親から武勇伝をよく聞かされたものです。

実際に人命救助等を行った、猛者からの直伝なので、臨場感があり、特に、髪の毛・臭い・煙等の話は強烈で、地獄絵図とは、このことかと思わせるものでした。

父親は、話の最後に「どうして被害が大きくなったか分かるか」と、聞いてきたものです。これは流木の恐ろしさを、伝えたかったからと思います。

私は、内陸育ちで、水害は川の氾濫で起きると思っていたので、高潮・海水による水害と、巨大な丸太が町中を暴れまわったことに、驚きを感じたものです。

二つ目は仮面ライダー、現在もテレビで放映されていますが、最新のものではなく、昭和40年代の仮面ライダー第一作。

最近は、女優さんから一一号さんは、お風呂場を一と、住まいの警備について、相談を受けているようですが、まだ、世界征服を企てる、悪の秘密結社と戦っていた頃の話。

番組のエンディングのシーン、場所は水面貯木場（今は、お台場海浜公園になっているようです）で、悪の組織と戦う仮面ライダー、やられた戦闘員が、高い所から次から次へと水面に落ちて、水しぶきが飛びます。

毎週、このシーンを見ていたせいか、水面貯木場といえば仮面ライダー、港の倉庫街はギャングの取引場所と想像してしまいます。

どうも小さな頃から、テレビや日活アクション映画の見過ぎのようです。

8月の予定

＊8月25日（月）
中茶安別小中学校　夏の学校林活動

＊管内の自然情報の収集や情報提供を行っています。下記のホームページを随時更新しておりますので是非ご覧下さい。

釧路湿原森林ふれあい推進センター
〒085-0825　北海道釧路市千歳町６番11
【IP】050-3160-5787【TEL】0154-44-0533【FAX】0154-41-7305
【E-mail】h_kusiro_f@rinya.maff.go.jp
【URL】http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html
国民の森林・国有林

当センターは、国有林をフィールドとして、北海道の多様な自然との共生に向けた自然再生活動に取組むＮＰＯ等の活動支援、森林環境教育等に携わる教育関係者の支援・技術指導等を行っています。